



全国
最大規模の
皮膚科

最先端の治療で 精神的な支えに

今年10月、群馬大医学部附属病院皮膚科教授に茂木精一郎さんが就任した。同科の専門外来数は全国でも最大規模を誇り、北関東広域における「皮膚メディカルセンター」として幅広いニーズに対応している。茂木さんは「さまざまな重症疾患の治療に当たる『最後の砦』として、あらゆる診療科と連携、協力して最先端の医療を提供していく」と力を込める。

群馬大学医学部附属病院皮膚科

茂木 精一郎 教授

もてぎ・せいいちろう
1974年5月前橋市生まれ。群馬大医学部卒。米国・国立衛生研究所(NIH)に留学。強皮症、創傷治癒、早老症などが専門。趣味は旅行

診察をする茂木教授。誠心誠意患者と向き合い、思いやりを持った対応を心掛けている

チーム医療

皮膚は全身を覆う最大の臓器で、内臓を守る重要な役割を担っています。アレルギーや皮膚病変を伴う膠原病に代表される「内科的皮膚疾患」と、良性や悪性腫瘍の切除、再建、化学療法を含めた「外科的皮膚疾患」の大きく二つに分類され、診療領域は多岐にわたります。

年間の手術件数は入院、外来合わせて約300件。命に関わる悪性黒色腫や有棘細胞がん、基底細胞がんといった皮膚がんの患者さんが7割近くを占めています。

リスクを伴う手術が多く、化学療法でも免疫抑制剤や抗がん剤など幅広く使用するため、医療安全に対する十分な対策が求められます。

豊富な経験を持つ医師や看護師、薬剤師など多職種連携によるチーム医療で治療に当たっています。週に2度、皮膚科医全員が参加するカンファレンスで議論を重ね、最善の治療方針を決めています。皮膚疾患は内臓の異常が影響することも多いため、ほかの診療科との連携も重要です。

苦しみを除く

皮膚や全身が硬くなる「全身性強皮症」や、筋力低下や皮膚症状が現れる「皮膚筋炎」といった指定難病の臨床研究に携わってきました。さらに、外科領域でも研さんを積んできました。

当院の臨床試験部との共同研究では、全身性強皮症の血流障害に対し、ボツリヌス菌の毒素を



カンファレンスでは患者の皮膚組織をモニターで確認しながら治療方針を決める

注入すると治療効果があることを明らかにしました。ほかの施設とも共同研究を進め、当院からボツリヌス毒素を用いた治療の適応疾患の拡大を目指しています。

診療で出合った症例の一つ一つにおいて、少しでも患者さんの苦しみを取り除きたいという思いを持って基礎研究と臨床研究に取り組んでいます。最適な医療が提供できるよう、一丸となって日々働んでいます。

ープで協調して問題解決できるような指導を心掛けています。若手医師には、患者さんに誠心誠意向き合い、思いやりを持って診察することの大切さを伝えています。また、診療記録を必ず残すように徹底し、医療事故につながる可能性のある事例は、一人で抱え込まずに教室全体で情報を共有して対策を講じています。

周囲から見え、日常生活に支障をきたすことが多いのが皮膚の病気の特徴でもあります。精神的苦痛を伴い、QOL(生活の質)の低下にもつながります。一人でも多くの患者さんの皮膚疾患を治療し、精神的な支えになりたいと考えています。

次世代の育成

さまざまな皮膚疾患を診療できる次世代の医師の育成にも力を入れています。医学生には、グル

● 群馬大皮膚科の専門外来 ●

- | | |
|--|---------------------------------|
| ① 皮膚病変を生じる膠原病
強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなど | ⑥ 蕁麻疹 |
| ② 皮膚悪性腫瘍
悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、皮膚リンパ腫など | ⑦ 脱毛症 |
| ③ 自己免疫性水疱症
天疱瘡、類天疱瘡など | ⑧ レーザー(血管腫) |
| ④ アトピー性皮膚炎 | ⑨ 血管炎 |
| ⑤ 乾癬・炎症性角化症 | ⑩ 褥瘡・フットケア |
| | ⑪ 遺伝性皮膚疾患
Werner症候群、結節性硬化症など |

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)

<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>